



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

CUC
Chiba University of Commerce

UNU-IAS



KU
KANAGAWA UNIVERSITY



国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム

持続可能な社会に向けた
大学の行動変容のための提言



国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)
国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP)



ご挨拶

SDGs や ESG への関心が世界中で高まる中、大学は持続可能な社会を推進するための研究・教育・大学運営を実践するという重要な役割を担っています。こうした中、日本の大学も研究・教育並びに多様なステークホルダーとの社会連携を通じた活動のあらゆる場面で個人の意識の変革や行動変容に貢献することが期待されています。

UNU-IAS では、日本の大学の SDGs の取組みおよびステークホルダーとのパートナーシップを強化し、国内外に発信するために、SDGs に積極的に取り組む意欲のある日本の大学が連携できる場として、「国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム」を設立しました。全国から 28 大学が参加し、2020 年 10 月から 2021 年 3 月にかけて、計 6 回のワークショップを開催し、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」について、大学がなすべきことについて議論を重ねてきました。

このたび、同プラットフォームでは、その内容を「マネジメント」「カリキュラム」「ファイナンス」「アカウンタビリティと外部評価の活用」の 4 つの視点から提言としてまとめました。また、参加各大学の取組みも紹介しています。この提言が日本および世界の大学の改革の基盤となり、より持続可能で回復力に優れ、包括的な社会を構築するための一助になることを期待しています。



山口しのぶ
国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）所長
国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム チェア

国際連合大学について

国際連合大学（国連大学：UNU）

国連大学は、日本に本部を置くグローバルなシンクタンクであり、同時に大学院を有する教育機関です。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することです。この使命を果たすため、国連大学は国連加盟国の、世界を先導する大学や研究機関と連携をとることで、国際的な学術機関並びに国連システム組織との架け橋という役割を担っています。大学院教育を通じて、国連大学は、特に開発途上国における能力育成に貢献しています。

<https://jp.unu.edu/about/unu>

国連大学サステナビリティ 高等研究所（UNU-IAS）

UNU-IAS は、人類と地球の持続可能な未来を実現するために設立された研究・教育機関です。東京を拠点に、政策立案に役立つ情報を提供し、国連システムの優先課題に対処するよう、エビデンスに基づいた知識と解決策を生み出すことで、国際社会に貢献しています。本研究所は、政策志向型の研究と能力育成を通じ、「持続可能な開発のためのガバナンス」、「生物多様性と社会」、「水と資源管理」、「イノベーションと教育」という4つのテーマにおいて研究・教育を推進しています。UNU-IAS の大学院教育は、持続可能な社会に向けて、世界的な取り組みの最前線に立つ未来の政策立案者や研究者を育成し、様々な分野における社会変容に貢献することを目指しています。



国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム(SDG-UP)

設立背景

SDGs の達成をはじめとする持続可能な社会の構築は平坦な道のりではなく、全ての人、国、企業、および組織が行動変容を迫られています。特に大学は、SDGs に対する若い世代の関心が高まる中、持続可能な社会に貢献できる人材を社会に送り出し、大学自体のサステナビリティを進めることで社会変容に大きく貢献することができるはずです。SDGs 認知度に関する近年の調査によれば、日本の学生の2人に1人は複数の SDGs を認知しているという結果が出ています。

目的

UNU-IAS は、「個々の大学での SDGs の取り組み強化」、「国際社会での活躍が期待できる人財の育成」、「SDGs に関する社会(国内外)でのプレゼンス向上」を目指すべく、大学同士が連携する場として SDG-UP を設立しました。SDG-UP は、日本の大学における SDGs の取り組み間の連携、並びに関係省庁や自治体、NGO、認証機関等との連携を強化し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、国際社会での大学のプレゼンス向上を図ることを目的としています。SDG-UP は、SDGs の推進に積極的な大学間の協力を促進し、取り組みの共有を図り、国内外で関係するステークホルダーと協力して、国際社会で積極的に活躍できる人材を輩出することを目指しています。



基本情報

名称： 国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP)

設立： 2020 年 10 月

主催： UNU-IAS

チェア： 山口しのぶ (UNU-IAS 所長)

参加者： 参加大学の意思決定に関与できる者を含む大学役員・教職員

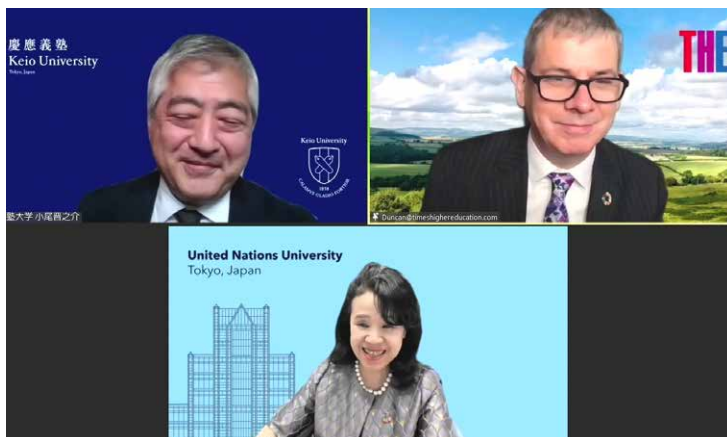
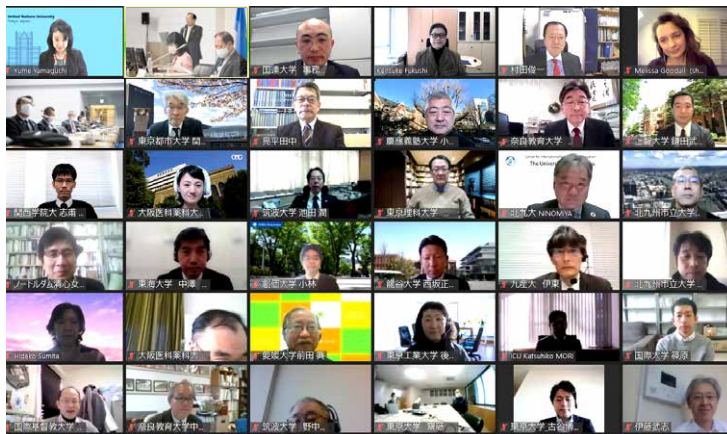
参加大学：28 大学 (2021 年 3 月末日時点)：

愛媛大学
大阪大学
大阪医科薬科大学
神奈川大学
金沢大学
関西学院大学
北九州市立大学
九州大学
九州産業大学
慶應義塾大学
国際大学
国際基督教大学
上智大学
創価大学
千葉商科大学
筑波大学
東海大学
東京大学
東京外国語大学
東京工業大学
東京都市大学
東京理科大学
東洋大学
奈良教育大学
ノートルダム清心女子大学
広島大学
北海道大学
龍谷大学

ワークショップ

SDG-UP では、大学のサステナビリティに関する取組みを強化するにあたり、参加大学が国内外の最新事例を共有するとともに、外部機関が大学をどう見ているかを知り、大学間の連携を促進することがまず重要だと考えました。そこで、SDG-UP では、毎月ワークショップを開催し、参加大学間の事例の共有に加え、海外大学や大学のサステナビリティに関する情報交換を行っています。このプラットフォームには、所在地、規模、設置体、重点を置く学問分野などの観点において多様な大学が参加していることから、ワークショップは、学びあいとシナジーを生み出す貴重な機会となっています。1年目の活動においては、インパクト・ランキングを主催する The Times Higher Education のデータ分析の責任者やイェール大学サステナブル・イニシアチブの副所長との特別対話を含むワークショップを開催し、議論を重ねました。これらの会では、外部評価の機能およびコミュニティや社会に対する地域・グローバルレベルでの各大学の貢献について議論しました。

年度最後の2021年3月には、「マネジメント」「SDGsカリキュラム」「ファイナンス」「大学評価（アカウンタビリティ）」の4テーマを取り上げた総合討論を実施し、提言をまとめました。



1. マネジメント

提言

- 大学は、学生 - 教員 - 職員のサステナビリティ活動を推進するための大学内の役割を明確化すべきである。
- 大学は、持続可能な社会に貢献するため、大学組織・大学構内でのサステナビリティ（脱炭素・人権尊重・多様性の促進）を率先的に推進すべきである。

提言を実現するためのプラン

- 各大学がサステナビリティ活動を推進する際の体制・役割を明確にした上で公表する。
- 国内外の好事例を本プラットフォーム等を通じて学び、各大学の活動に役立てる。

サステナビリティを進めるためには、トップのリーダーシップと役割分担が重要であり、大学も例外ではありません。また、大学の性格上、教員、学生、職員を含めた多様な構成員を巻き込むことにより、継続的な活動が可能となります。加えて、大学キャンパス自体

のサステナブル化を進める必要があります。脱炭素をはじめとする環境配慮、人権尊重やダイバーシティ化を推進することは、教職員の意識を変えるだけでなく、大学のマネジメントにも良い影響を与えと考えます。

Case A: 千葉商科大学—自然エネルギー 100% を達成

千葉商科大学では、持続可能な社会づくりへ大学も率先して取り組むべく、2017年に原科学長のリーダーシップのもと、自然エネルギー 100% 大学を目

指すことを宣言しました。大学所有の太陽光発電所のパネル増設や学生も巻き込んだ省エネ活動により 2019 年日本の大学初の RE100 を達成しました。



2. カリキュラム

提言

- 学生にサステナビリティ教育を施し、持続可能な社会づくりの人材を輩出することは、これからの大学の使命である。
- そのために、全学生がアクセスでき、かつ特定の分野に偏らないサステナビリティ・プログラム開発が必要である。

提言を実現するためのプラン

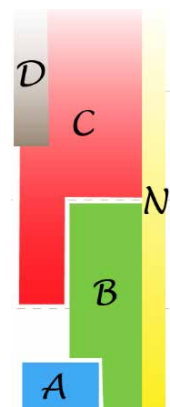
- 国連大学と参加大学でサステナビリティ・プログラム開発を行い、本プラットフォームを通じて、各大学に提供する。

大学は、将来の人材を社会に輩出するため、社会にとって非常に重要な役割を担っています。今後の持続可能な社会の推進のためには、若い世代がサステナビリティへの関心をより一層高め、将来の行動変容のドライバーとなる必要があります。すなわち、大学が適切なサステナビリティに関するカリキュラムを開発し、学

生に提供することは、これからの大学の重要な使命の1つとなります。こうしたサステナビリティ・プログラムは、特定の分野に偏ったものではなく、またあらゆる学生がアクセス可能にしておくことが望まれます。

Case B: 東京理科大学—東京理科大学—SDGsを意識した全学教養カリキュラムを導入

東京理科大学は理工系大学ですが、レジリエントな社会の実現には、レジリエントな人の存在が不可欠であるとして、2021年4月に教養教育研究院を設立。専門知と共に、あるべき未来像を批判的に捉えることのできる教養知を備えた、複眼的人材を育成するため、2022年度よりSDGsを意識した全学教養カリキュラムを導入する予定です。



3. ファイナンス

提言

- 大学はサステナブルファイナンスを新たな資金調達手段として積極的に活用すべきである。
- 大学は責任投資を通じて、投資先の行動変容を促すことにも取り組むべきである。

提言を実現するためのプラン

- 大学債をはじめ、大学ファイナンスの多様化を推進するための研究会を設置する。
- PRI（責任投資原則）への署名を検討するなど、サステナビリティを意識した資産運用を行う。

大学を巡る環境が変化中、大学の資金調達も見直しが求められています。昨今では、技術の進化もあり、資金調達手段も多様化してきています。また、ESG 投資も世界で数兆ドル規模に拡大しています。海外では、SDGs 債を発行する大学も増えてきており、日本の大学も ESG 投資を見据えたサステナブルファイナンスをはじめとした多様な資金調達手段を確保することが必要であり、制度改革を含めた国全体としての議論が

求められます。一方、大学は資金を運用する立場として、投資先のサステナブル活動を促進させることにより、社会変容に貢献することも可能です。大学として、国連が定めた PRI（責任投資原則）への署名を検討するなど、より社会全体を見据えた取り組みも期待されます。

Case C: 東京大学—世界初*の大学ソーシャルボンドを発行

東京大学は、「社会変革を駆動する」という役割を果たすべく、未来への投資のため、2020 年日本の大学初の大学債となるソーシャルボンド「東京大学 FSI 債」を 200 億円発行しました。大学が長期の投資先となることで、より良い社会に向けた資金循環の創出を目指します。

* ブルームバーグおよび ICMA データベース調べ

ICMA Sustainable Bonds Database
<https://www.icmagroup.org/sustainable-finance/green-social-and-sustainability-bonds-database/#HomeContent>



4. アカウンタビリティと外部評価の活用

提言

- 大学も「社会の公共財」であり、その活動には説明責任が求められていることを認識すべきである。
- 大学は教育研究活動を可視化する手段として、また、自己評価システムを構築して経営を改善し、行動変容を推進する手段として外部評価を活用すべきである。

提言を実現するためのプラン

- 各大学の取組みを SDG-UP を通じて積極的に国内外に発信する。
- The Times Higher Education (インパクト・ランキング) をはじめとした評価機関との対話を継続的に行う。

今、社会全体としてアカウンタビリティ（説明責任）が求められており、大学も社会の一員である以上、例外ではありません。大学が世界から優秀な人材を集め、国際的な交流を深めていくためには、発信力の一層の向上も求められます。また、発信力を向上することで大学評価を向上させることも期待できます。外部評価

で高いランキングを得ることは、大学にとって大きなモチベーションとなり得ます。それに加えて、国際的な外部評価を受けることによって、自らの経営や教育研究活動を可視化することができ、それを大学経営の改善のために活用することが期待されます。

Case D: 北海道大学—「サステナブルキャンパスの取組み」から「世界の課題解決」に貢献する評価システムの開発へ

北海道大学は、アジア初の総合的なサステナブルキャンパス評価システム (ASSC) を開発し、大学運営の改善ツールとして活用しています。ASSCをTHEのImpact Rankingsの評価にも活用し、「サステナブルキャンパス」の実現に貢献しています。

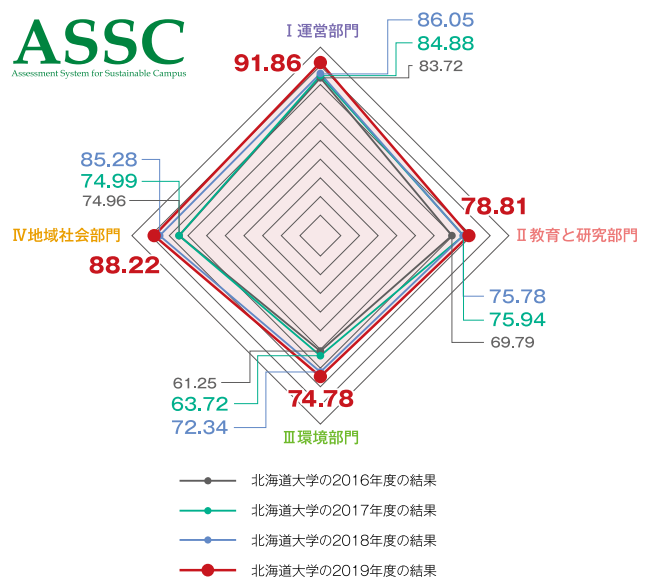


図1 北海道大学の4部門の得点率

参加大学の取組み

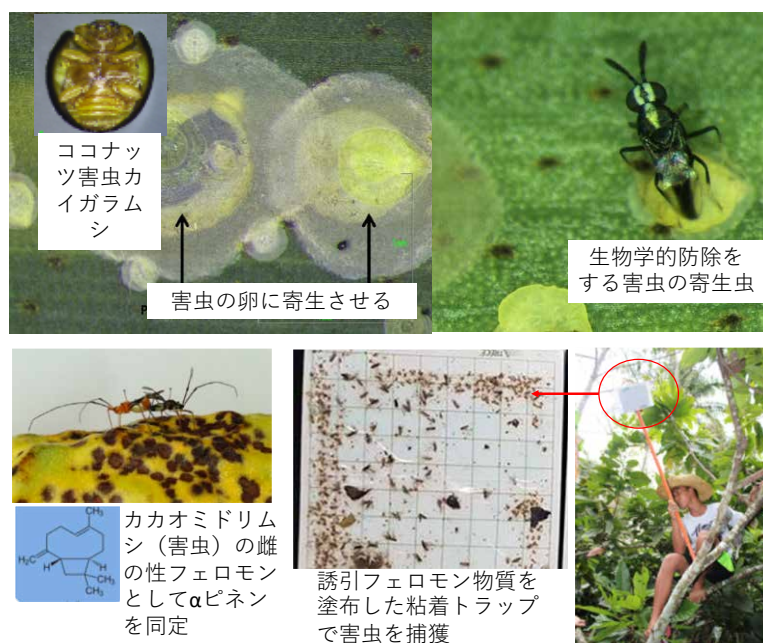
- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 愛媛大学 | 25. ノートルダム清心女子大学 |
| 2. 大阪大学 | 26. 広島大学 |
| 3. 大阪医科薬科大学 | 27. 北海道大学 |
| 4. 神奈川大学 | 28. 龍谷大学 |
| 5. 金沢大学 | |
| 6. 関西学院大学 | |
| 7. 北九州市立大学 | |
| 8. 九州大学 | |
| 9. 九州産業大学 | |
| 10. 慶應義塾大学 | |
| 11. 国際大学 | |
| 12. 国際基督教大学 | |
| 13. 上智大学 | |
| 14. 創価大学 | |
| 15. 千葉商科大学 | |
| 16. 筑波大学 | |
| 17. 東海大学 | |
| 18. 東京大学 | |
| 19. 東京外国語大学 | |
| 20. 東京工業大学 | |
| 21. 東京都市大学 | |
| 22. 東京理科大学 | |
| 23. 東洋大学 | |
| 24. 奈良教育大学 | |

設立年	1949 年
学生数	9,172 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	60:40
学生における留学生比	2.0%
教員数	791 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	25 名
web サイト URL	https://www.ehime-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	SDGs 推進室 sdgs@stu.ehime-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://is.gd/hxul5L

薬剤に依存しない病原体・害虫の制御と環境負荷の軽減ー持続可能な感染症制御と農業に向けてー

東南アジア環境健康研究ユニットは、途上国を対象にして、環境や生態系への化学汚染負荷を最小化しつつ、感染症の制御と農業生産性を高める医薬品や農薬等の薬剤使用の在り方を提案している。従来の医療・農業分野の研究では、医薬品や殺虫剤等の薬剤開発に主眼が置かれていたが、本事業は、生態系と人間社会の共生を目指して、薬剤への依存度を下げて病原体や害虫を制御する代替技術を開発する。従来の薬剤使用の監視や規制だけではなく、代替技術も提案すること

で、ステークホルダーが納得した形で社会実装を進めます。本研究が提案する農作物への病原菌感染や農業害虫を制御する技術は SGD2 (飢餓をゼロに)、蚊媒介感染症や薬剤耐性菌を制御する技術は SGD3 (すべての人に健康と福祉を)、環境や生態系の化学汚染や生態毒性の実態解明やその予測は SGD14 (海の豊かさを守ろう) と SGD15 (陸の豊かさを守ろう) にそれぞれ貢献することが期待されます。

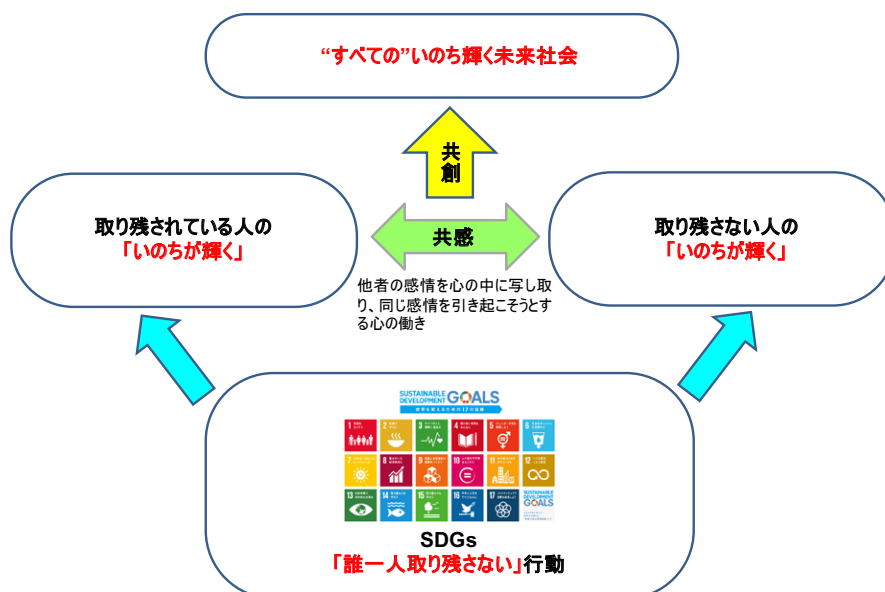


設立年	1931 年
学生数	25,461 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	65:35
学生における留学生比	9.8%
教員数	3,360 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	305 名
web サイト URL	https://www.osaka-u.ac.jp/ https://sdgs.osaka-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	総務部総務課 sdgs@ml.office.osaka-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/zaimu/r01

本学は、社会の様々なステークホルダーと共創ネットワークを拡げることにより、「誰一人取り残さない」社会、つまり取り残されている人の「いのちが輝く」と同時に取り残さない人の「いのちが輝く」ような共感と共創による共生社会を目指します。また、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして SDGs を推進する 2025 大阪・関西万博の活動にも貢献します。産官学民の 1200 団体以上の様々なアクターにより構成される SDGs 推進ネットワーク組織「関西 SDGs プラットフォーム」では、本学は 2017 年の設立当初から

運営委員を務める他、SDGs 達成に向けた具体的な取り組みを行うアカデミック・コモンズ「大学分科会」の発起人の一人として、諸大学および企業や NPO 法人、自治体等（50 団体）とも連携し、教育、研究、社会貢献の活動を開始しています。今後は、大阪・関西万博の開催に向けて、「いのち輝く未来社会」の形、取り組むべき課題やアクションについて、議論し、発信する取り組みを国内外で展開する予定です。

「誰一人取り残さない」から「いのち輝く未来社会」へ



大阪医科薬科大学



設立年	2021 年 * (旧大阪医科大学 :1927 年 / 旧大阪薬科大学 :1904 年)
学生数	3,132 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	41:59
学生における留学生比	0.3%
教員数	582 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	73:27
外国人教員数	5 名
web サイト URL	https://www.omp.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	sakae.wasa@omp.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.omp.ac.jp/about/sustainability.html

「医療」と「教育実践」に「研究」を融合させた新しい「LD治療」のかたち

【LDセンター/小児高次脳機能研究所/小児科学教室】

LD (learning difficulty) センターは 2001 年の開設以来、神経心理学的方法を用いた発達障害児の学習・運動面の評価・診断・指導を行っており、能力向上に加え幼児期の指導が就学後の適応にも効果があると実証されています。また、指導者や保護者への研修会を実施し、年間約 50 回の開催で延べ 8,000 名が受講しています。

2018 年には小児高次脳機能研究所を開設し、エビデンスに基づく評価・指導法の開発・普及を行うなど、先進的な取り組みを行い社会貢献につなげています。

このように医療系大学において、研究に基づいて発達障害児の診断から指導までを一貫して行う機関を持つのは、他に類を見ない取り組みです。

こうした活動は、SDGs 目標 4. 2「乳幼児発達・ケアおよび就学前教育へのアクセスの確保」を实践するものです。



ダウン症児の学習指導風景



発達障害児のアートプログラム

設立年	1928 年
学生数	17,333 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	70:30
学生における留学生比	1.9%
教員数	499 名 (2021 年 4 月 1 日時点)
教員数の男女比	81:19
外国人教員数	44 名
web サイト URL	https://www.kanagawa-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	学長室 gakucho-secretary@kanagawa-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.kanagawa-u.ac.jp/disclosure/

SDGs を使った実践プログラムを国際学生寮「栗田谷アカデミア」で実施

多様なバックグラウンドをもつ学生が多彩な交流や経験を通して、多様性を尊重し、新たなコミュニティを創造することを目的に設立された国際学生寮「栗田谷アカデミア」では、各国の学生が共同生活を送っています。「SDGs PBL プログラム」はこの目的に合うプログラムとして導入され、基礎プログラムで英語力の向上と

多様性理解（自己・他者・地域）を、実践プログラムで SDGs を推進できる人材の育成を目指し、勉強会やグループワークを行いました。最終発表会では「身近なところから世界を変えていく持続可能な取り組み」をテーマに、達成するゴールと各チームの活動の成果を発表しました。



国際学生寮「栗田谷アカデミア」外観

金沢大学



設立年	1949 年
学生数	10,111 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	63:37
学生における留学生比	5.2%
教員数	1,033 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	82:18
外国人教員数	39 名
web サイト URL	https://www.kanazawa-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	研究・社会共創推進部 chiikikyosousuishin-kafuku@adm.kanazawa-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kankyoutorikumi.html

地域 xSDGs ～ Kanazawa University Triangle for SDGs ～

金沢大学では、地域志向の活動 (Local)、国際的な活動 (Global)、人材育成 (Capacity building) の 3 つを密接に連携させ、多様な機関とのパートナーシップを基盤として SDGs の理念を社会で実践できる人材を育成しています。

SDGs 未来都市に選定された珠洲市などと連携し、世界農業遺産「能登の里山里海」を拠点とした「能登里山



里海 SDGs マイスタープログラム」を実施しています。本プログラムは地域の実態を踏まえた里山里海の新たな価値の創造に加え、SDGs に関する学びを提供す

る、社会人対象のプログラムです。これまで 205 名がマイスターに認定され、植林事業や農業、特産品を使った商品開発等、様々な活動で地域活性化に貢献しています。

また、フィリピンの世界農業遺産「イフガオの棚田」では、本プログラムのノウハウを元に 2014 年 2 月から「イフガオ里山マイスター養成プログラム」を実施しており、その取組の一環として、イフガオの受講生との交

流を行っています。

金沢大学国際機構 SDGs ジオ・エコパーク研究センターは 2019 年 2 月、本学の SDGs 等に関する教育・研究拠



点として、白峰地区の古民家内に設立されました。白山しらみね自然学校や白山ユネスコエコパーク協議会等の地元団体と連携し、当センターを拠点として、ホームステイや白峰地区の散策、白山の歴史や文化、自然に関する学びを提供するなど、様々な取り組みをより一層推進しています。特に、大学の世界展開力強化事業の文化交流プログラムを通じて、外国人留学生が参加し、他国の文化を理解し尊重しあう学生交流活動を行っています。

これらのプログラムなどを通して地域課題解決に取り組む次世代リーダーを育成し、SDGs の達成に貢献します。



関西学院大学



設立年	1889 年
学生数	24,874 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	50:50
学生における留学生比	3.7%
教員数	774 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	115 名
web サイト URL	https://www.kwansei.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	総合企画部 kgu-gap@kwansei.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://kgc2039.jp/sdgs/

スクールモットー “Mastery for Service” を体現する世界市民の育成 ～学生の教育を主軸とした SDGs への取り組み～

“Mastery for Service 奉仕のための練達” を体現する世界市民の育成をミッションとする本学は、日本初の難民を対象とした入試の導入や UNV との協定に基づいた学生派遣等、国連や国際機関と連携した教育プログラムを推進してきました。本学では長期戦略の柱の

一つに SDGs を位置づけ、2019 年 4 月に学長を本部長とする SDGs 推進本部を設置。大学・学生・企業が連携し実現した神戸三田キャンパスのマイボトルプロジェクトや BIZCAFE 等、学生の教育を主軸とした SDGs の取組を進めています。



設立年	1946 年
学生数	6,789 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	49:51
学生における留学生比	4.4%
教員数	262 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	31 名
web サイト URL	https://www.kitakyu-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	地域連携課 chiiki@kitakyu-u.ac.jp

「環境を育む」人材育成における学際的なアプローチ (SDGs 教育)

2016 年に策定した 3 つのビジョン*の一つである「環境を育む」のビジョンのもと、環境人材の育成に取り組んでいます。全学的な基盤教育を軸として、文系学部の北方キャンパスでは、副専攻環境 ESD プログラム、理系学部のひびきのキャンパスでは、学部専門教育を提供しています。環境問題の解決には学際的なアプローチが必要であり、そのためには他領域の知識や技術の獲得に加え、異なる専門性を持った人的ネット

ワークの形成が必要不可欠です。そのため、両キャンパスにまたがる科目「未来を創る環境技術」などを設定し、文理融合の教育機会の場を積極的に提供しています。北九州市立大学は、環境問題の解決となる持続可能な社会の構築を目指し、自らが考え、その解決方法を見出すことができる人材の育成につなげるための SDGs 教育に取り組んでいます。

* 他 2 つのビジョン: "地域と歩む"、"地球(世界)とつながる"



設立年	1911 年
学生数	18,566 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	72:28
学生における留学生比	12.5%
教員数	2,378 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	85:15
外国人教員数	1,002 名
web サイト URL	https://www.kyushu-u.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	国際企画課国際戦略係 intlssenryaku@jimu.kyushu-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.kyushu-u.ac.jp/f/42345/%E7%92%B0%E5%A2%83%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B82020.pdf

「世界環境の日」ホスト国の SDGs 「新国富 (IW)」 報告書を代表出版

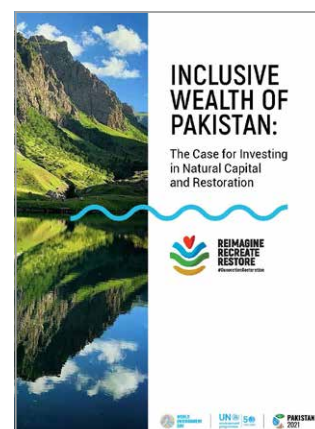
1972 年 6 月 5 日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念し、国連では 6 月 5 日を「世界環境の日」と定めています。この日に合わせ、今回世界環境の日のホスト国であるパキスタンが SDGs 報告書「パキスタンの新国富：自然資本と再生への投資 (Inclusive Wealth of Pakistan: The Case for Investing in Natural Capital and Restoration)」を発表しました。これは都市研究センター長、馬奈木俊介 主幹教授が代表執筆したもので、同センターが研究を進めている「新国富指標」を活用し、パキスタンの自然資本はじめ、富の価値を分析・評価しています。「新国富指標」は SDGs に関する取組を総合的に評価する方法として国連環境計画(UNEP) が推進しており、この報告書は UNEP および九州大学発の報告書でもあります。

パキスタンの新国富は過去 10 年間に、年平均 2.3% 増加しています。人的資本、人工資本は増加していますが、自然資本が約 0.1% 減少しています。この減少を受けて、パキスタン政府により 2019 年から始まった「100 億本の木の津波計画 (Ten Billion Tree Tsunami Programme : TBTTP)」での森林再生に

よって、自然資源が増加する予定です。同時にコミュニティの参加や雇用創出も期待されています。

この報告書では、包括的な富が持続的に成長し続けるために、再生可能な資源と再生不可能な資源、さらには土壌の質や水の利用可能性など、目に見えない生態系サービスを包括的に考慮した投資を行うことを議論しています。九州大学は、今回の「新国富」報告書を主幹することが決定しており、詳しい方針についてパキスタン政府に報告しています。

出版先：United Nations Environment Programme (2021). Inclusive Wealth of Pakistan: The case for investing in natural capital and restoration.



九州産業大学



設立年	1960 年
学生数	10,280 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	73:27
学生における留学生比	3.6%
教員数	330 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	82:18
外国人教員数	42 名
web サイト URL	https://www.kyusan-u.ac.jp
問い合わせ窓口、連絡先	総合企画部 kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp

KSU プロジェクト型教育を通じた SDGs の推進

本学は、文理芸の3分野を有する総合大学として、高度な専門性と豊かな感性を持つ人材を育成しています。その基盤となるのが「産業と大学は車の両輪のように一体となって、時々の社会のニーズを満たすべきである」という建学の理想「産学一如」です。その理想に基づき、本学ではプロジェクト型教育を展開しています。学内のみならず外部の企業、行政、地域などと連携する様々なプロジェクトの中で、学生は社会課題を認識し、その解決策を考えることを通して SDGs を学びます。



西戸崎ウォール&シャッターアートプロジェクト



高齢者対象の遺影制作プロジェクト

設立年	1858 年
学生数	33,436 名 (2020 年 5 月 1 日現在)
学生数の男女比	64:36
学生における留学生比	5.7%
教員数	2,316 名 (2020 年 5 月 1 日現在)
教員数の男女比	72:28
外国人教員数	206 名
web サイト URL	https://www.keio.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	グローバル本部 keio-geo@adst.keio.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/

地球社会の持続可能性の向上をめざして

慶應義塾は、「実学（サイエンス）により地球社会の持続可能性を高める」を構想テーマに、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業（2014 年度採択）を推進しています。2018 年には多様な価値観を認め、自他の尊厳に等しく敬意を払い、協力し合う協生社会

の実現を目指して協生環境推進室を設置、翌年 9 月に「協生環境推進憲章」を制定しました。2020 年には、SDGs に関わる学内の様々な活動を紹介するウェブサイトを立ち上げました。



<https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/>

設立年	1982 年
学生数	309 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	60:40
学生における留学生比	92.6%
教員数	53 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	83:17
外国人教員数	24 名
web サイト URL	https://www.iuj.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	スーパーグローバル大学推進室 sgu@iuj.ac.jp

「世界が協力する場」で実現する持続可能な未来の共創

国際大学はすべての教育を英語で行い、留学生が学生の大多数を占める国際色豊かな大学院大学です。学生はキャンパス内の学寮にて勉学と日常生活を共にし、知識としての異文化理解の枠を超え、経験的に多文化共生の意義や価値を身に付けていきます。まさに「国境を乗り越え、世界が協力する場」として国際的にも非常に高いレベルの教育が行われています。SDGs が目指す持続的な未来に向けてグローバルな視点から学習・研究を行うには理想的環境であり、それを生かして、2021 度には「国際社会起業家プログラム (ISEP)」および「デジタルトランスフォーメーション (DX) プログラム」を開設します。ISEP は国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局との連携協定に基づくもので、国際経営学や国際関係学などの知見を駆使し、SDGs 課題に対して、社会起業家として貢献できる人材を育成する学位プログラムです。また、DXプログラムは、デジタル技術に関する実践的な技術だけでなく、デジタル戦略やプラットフォーム、ビジネスモデルなど、これからのグローバルリーダーに必須の概念であるDXについて幅広い知見を有する人材を育てることを目指します。コロナ危機により社会課題はより複雑化していますが、本学が進める教育・研究活動や産学連携、地域・国際連携によって今後も「世界益」へ貢献する人材を輩出していきます。



国際基督教大学

設立年	1953 年
学生数	3,139 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	-
学生における留学生比	11.0%
教員数	146 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	-
外国人教員数	52 名
web サイト URL	https://www.icu.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	https://www.icu.ac.jp/inquiry/
サステナビリティレポートの URL	https://www.icu.ac.jp/about/info/

2015 年に那須キャンパス太陽光発電所を開設。遊休資産を活用しつつ二酸化炭素排出削減と学生奨学金などに還元して経済・環境・社会的側面の統合を目指しています。2020 年には SDGs に関するサービス・ラーニング・プログラムを拡充し、教育・研究・社会展開・インパクト評価の統合に努めています。



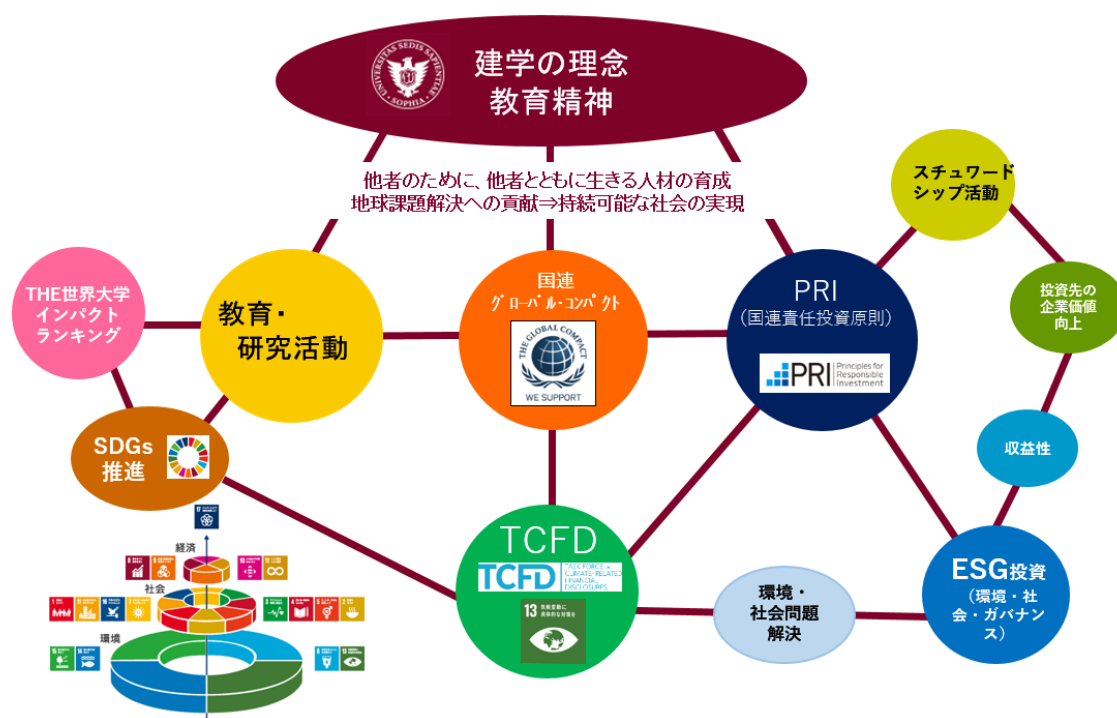
設立年	1913 年
学生数	13,665 名 (2021 年 3 月 31 日時点)
学生数の男女比	40:60
学生における留学生比	10.6%
教員数	545 名 (2021 年 3 月 31 日時点)
教員数の男女比	65:35
外国人教員数	100 名
web サイト URL	https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/approach/SDGs/
問い合わせ窓口、連絡先	Sophia Sustainability Promotion Headquarters sustainability-co@sophia.ac.jp

サステナブル投資 (ESG 投資) の取組み

上智学院では、建学の理念 * と統合的な投資方針を取り入れ、社会的リターン (サステナビリティ向上) と投資リターンの両立を目指した ESG (環境・社会・ガバナンス) 投資を推進しています。ESG 投資を通じて、グローバル社会の直面する様々な課題解決に貢献してまいります。

*他者のために、他者とともに生きる人材の育成、地球課題解決への貢献
ESG 投資の実践事例

<https://www.sophia-sc.jp/info/esg.html>



設立年	1971 年
学生数	6,835 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	49:51
学生における留学生比	8.7%
教員数	353 名 (2021 年 5 月 26 日時点)
教員数の男女比	67:33
外国人教員数	57 名
web サイト URL	https://www.soka.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	SDGs 推進センター sokauniv-sdgs@soka.ac.jp

プランクトン工学をもとに持続可能な社会の構築を目指す

本学の特色ある研究分野「プランクトン工学」を基盤として、私立大学研究ブランディング事業および SATREPS の採択を受け、エチオピアをフィールドに開発途上国に適した環境技術の研究開発、現地植物プランクトン由来の有価物の商品化による新たな産業基盤

の形成、現地住民への環境教育・経済教育を実施しています。

本事業は持続可能な循環型社会の構築を目指すものであり、国連 SDGs が掲げる環境保全・飢餓解消に貢献していくものです。



設立年	1928 年
学生数	6,531 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	-
学生における留学生比	-
教員数	175 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	-
外国人教員数	-
web サイト URL	https://www.cuc.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	学長事務室 p-office@cuc.ac.jp

自然エネルギー 100%大学

本学では、脱炭素化のモデルとして、エネルギー転換に取り組んでいます。具体的には、省エネ、創エネの推進により、本学の消費電力量と同量の自然エネルギー発電を自らの責任で行うことを、2019 年に国内大学で初めて達成しました。同年秋には電力調達においても 100% (RE100) を達成し、2020 年に国連の Race to Zero に国内大学で初めて登録。さらに、ガスを含

めた全消費エネルギー量を同量にする取り組みに進んでいます。

自然エネルギー 100%大学は、地域分散型エネルギー社会の形成をめざすもので、この活動を他大学にも広げて行く必要があります。そこで、2021 年 6 月に、脱炭素化を目指す趣旨に賛同する諸大学に呼びかけ、「自然エネルギー大学リーグ」を設立しました。



設立年	1973 年
学生数	16,542 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	63:37
学生における留学生比	13.2%
教員数	1,887 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	81:19
外国人教員数	142 名
web サイト URL	https://www.tsukuba.ac.jp/ https://www.osi.tsukuba.ac.jp/sdgs/
問い合わせ窓口、連絡先	sdgswsb@un.tsukuba.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.tsukuba.ac.jp/about/disclosure-report/

筑波会議 2019

2019 年 10 月 2 日から 4 日にかけて、「Society 5.0 と SDGs を見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題」をメインテーマに、産官学の優秀な若手人材を主役とする国際会議「筑波会議 2019」が開催されました。筑波大学は、同会議の協力機関として企画段階から主導的な役割を担いつつ参画し、様々なセッションを主催しました。3 日間の会議期間中、会場となったつくば国際会議場には、65 ケ国・地域から 1,500 名が参加し、世界の若手人材による交流が活発に行われました。

10月2日に行われた開会式では、筑波会議を主催する筑波会議委員会の委員長を務める永田恭介学長が開会あいさつを行い、「TRUST」をキーワードに Society5.0 と SDGs の実現を呼びかけました。また、開会式には萩生田光一文部科学大臣にもご出席・ご挨拶いただき、この会議における議論と交流によって参加者が国内外の各分野においてリーダーとなること、さらに人類と社会の発展に貢献することへの期待を述べられました。

10月3日には筑波会議 2019 のメインテーマである Society 5.0 と SDGs について、2つのメインセッションが開催されました。このうち「社会変革を生み出すためのアントレプレナーシップ」セッションに筑波大学サイバニクス研究センター研究統括の山海嘉之教授が登壇し、プレゼンテーションおよび他の登壇者とのパネルディスカッションを行いました。

10月4日に行われた閉会式では若手研究者等により筑波宣言が読み上げられ、地球規模課題の解決に向けて若い世代が果たす役割の重要性を強調しました。



設立年	1942 年
学生数	27,404 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	72:28
学生における留学生比	3.8%
教員数	1,607 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	79:21
外国人教員数	55 名
web サイト URL	https://www.u-tokai.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	Office for College of Global Citizen / knaka8@tokai.ac.jp

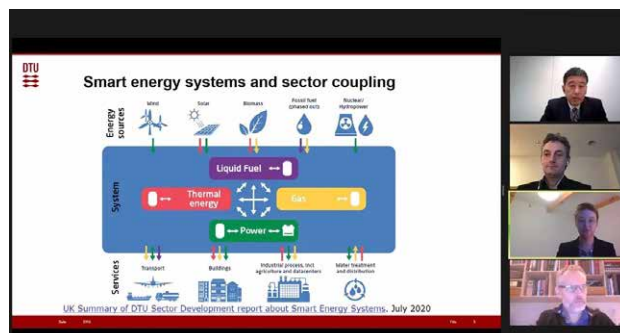
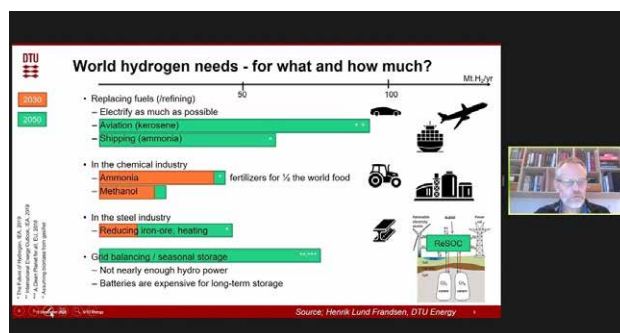
東海大学ヨーロッパ学術センター「On-Line QOL セミナー」

2020 年 4 月より、東海大学ヨーロッパ学術センター創立 50 周年を記念して、QOL セミナーを開催。本学では SDGs のゴールとして QOL を設定しています。世界中の専門家の方に DX、幸福感、脱炭素エネルギー、高齢者ケア、ジェンダー、エコツーリズムといったサス

テナブル社会のためのテーマのセミナーを開催してきました。これまでに世界中から 900 人の方が参加。今後も QOL セミナーでは「持続可能な社会の実現」をテーマとして取り組んでいきます。



東海大学の QOL のロゴ (国連から承認をいただいております。)

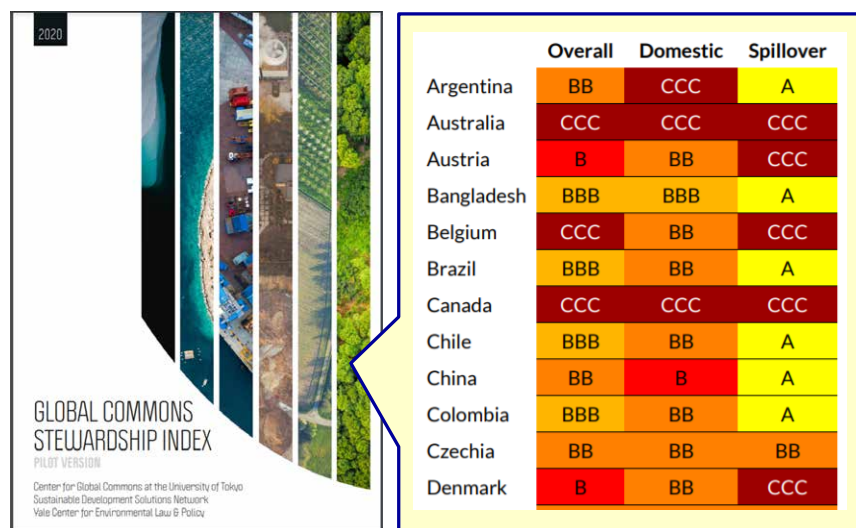


設立年	1877 年
学生数	27,922 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	76:24
学生における留学生比	14.2%
教員数	3,924 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	86:14
外国人教員数	634 名
web サイト URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	intl-strategy.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-relations/IRIR.html https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/public05.html

東京大学は未来社会協創推進本部 (FSI) を設置し、地球と人類社会の未来に貢献する協創活動を推進するため、大学全体で SDGs を活用推進しています。SDGs に関する学内の多様な教育研究・社会貢献活動を取りまとめた「FSI 登録プロジェクト」には 270 の活動が参加しています (2021 年 5 月現在)。2020 年 12 月

には、海外企業や国際機関との協働でグローバル・コモنز・スチュワードシップ指標 (GCSI) のプロトタイプ版を公表しました。持続可能な未来に向け、各国の社会・経済システム転換を促すための仕掛けとして期待されています。

2020.12 Index のプロトタイプ版を公表 (対象 50 か国)



SDSN, Yale Center for Environmental Law & Policy, and Center for Global Commons at the University of Tokyo. 2020. Pilot Global Commons Stewardship Index. Paris; New Haven, CT; and Tokyo.

東京外国語大学



設立年	1949 年
学生数	4,329 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	35:65
学生における留学生比	15.4%
教員数	245 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	59:41
外国人教員数	41 名
web サイト URL	http://www.tufs.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	研究協力課 kenkyu-soumu@tufs.ac.jp
サステイナビリティレポートの URL	http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/pr/pr-brochures/TUFS_ir2020_1104_1p.pdf

大学間連携により多文化共生教育を推進

東京外国語大学は、地域社会における多言語・多文化に対応でき、多様な課題に取り組むことができる人材を育成するため、SDG 4・5・10・16 の目標につながり、多文化共生を学び考える科目群を多く開講している。

さらに、2020 年度には大学間連携による「多文化共生教育コンソーシアム」を立ち上げ、教育分野を中心とした日本全国、さらに海外にも視野を広げた学びのプラットフォームの構築を進めています。



東京工業大学



設立年	1881 年
学生数	10,448 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	84:16
学生における留学生比	16.5%
教員数	1,529 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	-
外国人教員数	176 名
web サイト URL	https://www.titech.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	sdg-up@jim.titech.ac.jp http://www.gsmc.titech.ac.jp/kankyohoukoku/2020/2020top.html?_gl=1*1rimf5r*_ga*M1i4ODQ4MzMxNS4xNjZnNjU0OTE0*_ga_VKBJ61GEPE*MTYyMzY1NDkxMy4xLjAuMTYyMzY1NDkxNS4w
サステナビリティレポートの URL	

SDGs に関連する研究・教育活動の「見える化」－「環境報告書」を通じた情報発信

本学では 2005 年度より毎年「環境報告書」を作成し公表しています。環境省の環境報告ガイドラインに則した「環境パフォーマンス」を軸に、大学活動に伴う廃棄物等による環境負荷低減の取り組みや、省エネ・CO₂対策と状況、学生および教職員の環境問題への取り組みなど、本学の環境保全活動を SDGs との関連から整理し情報発信しています。人材育成と研究活動を通じた環境問題への取り組みにより、研究教育機関として社会に貢献しています。

Contents

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

本学では、積極的に持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます



ごあいさつ..... 1

第 1 章 東京工業大学の概要

1-1 環境方針	2
1-2 基本的要件	2
1-3 組織構成	3

第 2 章 環境に貢献する科学技術研究

2-1 最先端の環境関連研究内容 ～トピックス～	5
--------------------------------	---

第 3 章 環境教育と人材育成

3-1 環境関連カリキュラムの充実	7
3-2 附属科学技術高等学校における環境教育	8

第 4 章 社会貢献活動

4-1 公開講座等	9
4-2 学生の環境保全活動	10

第 5 章 環境マネジメント

5-1 大学諸活動に伴う環境的側面とその対応	12
5-2 キャンパス整備における環境配慮の取組	12
5-3 省エネルギーとCO ₂ 対策の取組	13
5-4 一般廃棄物による環境負荷低減の取組	14
5-5 化学物質による環境負荷低減の取組	15

第 6 章 環境パフォーマンス

6-1 研究・教育活動と環境負荷の全体像	17
6-2 エネルギー使用量	18
6-3 省エネルギーとCO ₂ 削減	19
6-4 化学物質管理	21
6-5 実験系産業廃棄物	22
6-6 その他物質	23
環境目標と行動の達成度評価	24
「環境報告ガイドライン2018」との対照表	26
第三者意見	27
編集後記	28

設立年	1929 年
学生数	7,667 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	75:25
学生における留学生比	2.5%
教員数	565 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	79:21
外国人教員数	24 名
web サイト URL	https://www.tcu.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	研究推進部 産学官連携センター sangaku@tcu.ac.jp

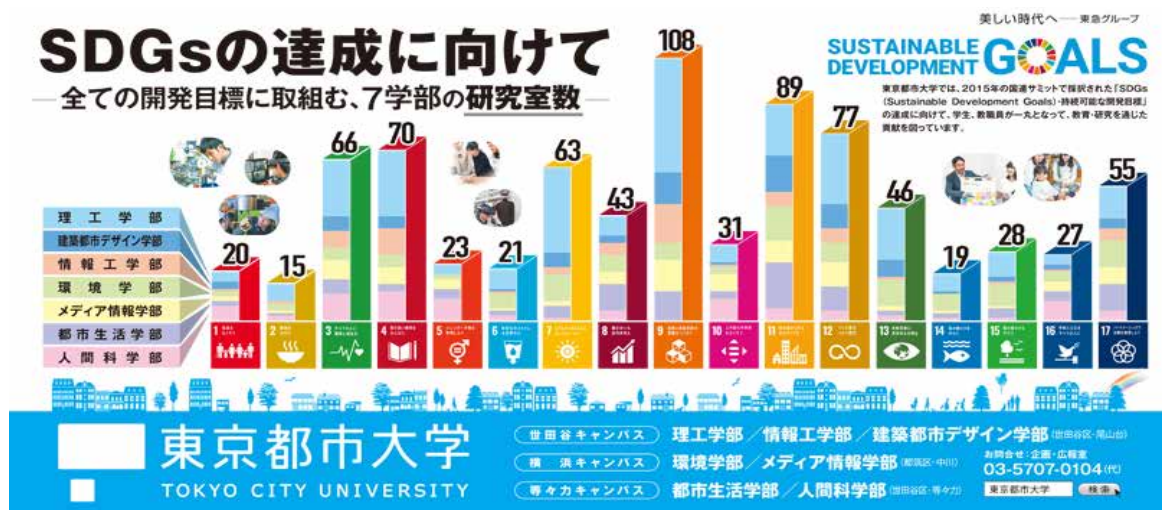
東京都市大学：SDGs の達成に向けて

東京都市大学はSDGsに寄与する教育と研究に取り組んでいます。昨今、国内外での議論が急速に高まっているカーボンニュートラルの実現に向けては、国、地方自治体、大学、企業等のあらゆる主体が、それぞれの立場や強みを活かして取り組む必要があります。なかでも、政策や技術革新の基盤となる科学的知見を創出し、その知を普及する使命を持つ大学が国内外に果たす役割は極めて大きいと考えます。大学と地域が連携し、地域の脱炭素化を進めることをはじめとして、そのモデルを国内外に展開していくことなど、大学の機能はますます重要になってきています。

このような視座を創設当初から持つ横浜キャンパスは、自然環境に配慮したエコ・キャンパスとして、1998

年に日本の大学で初めて国際環境規格 ISO14001 の認証を受けました。キャンパスライフそのものから環境問題を学ぶ、知の拠点づくりの先駆けを実現しています。その活動は、学生を構成員とする ISO 学生委員会において、主に学内の環境改善や学内外の環境意識向上を目的に、脈々と受け継がれています。また、環境 ISO フォーラムの開催やエコプロダクツ出展なども行っています。

東京都市大学は、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念に掲げ、7つの学部
に属する研究室でカーボンニュートラルを含む全ての Sustainable Development Goals に取り組んでいます。



東京理科大学

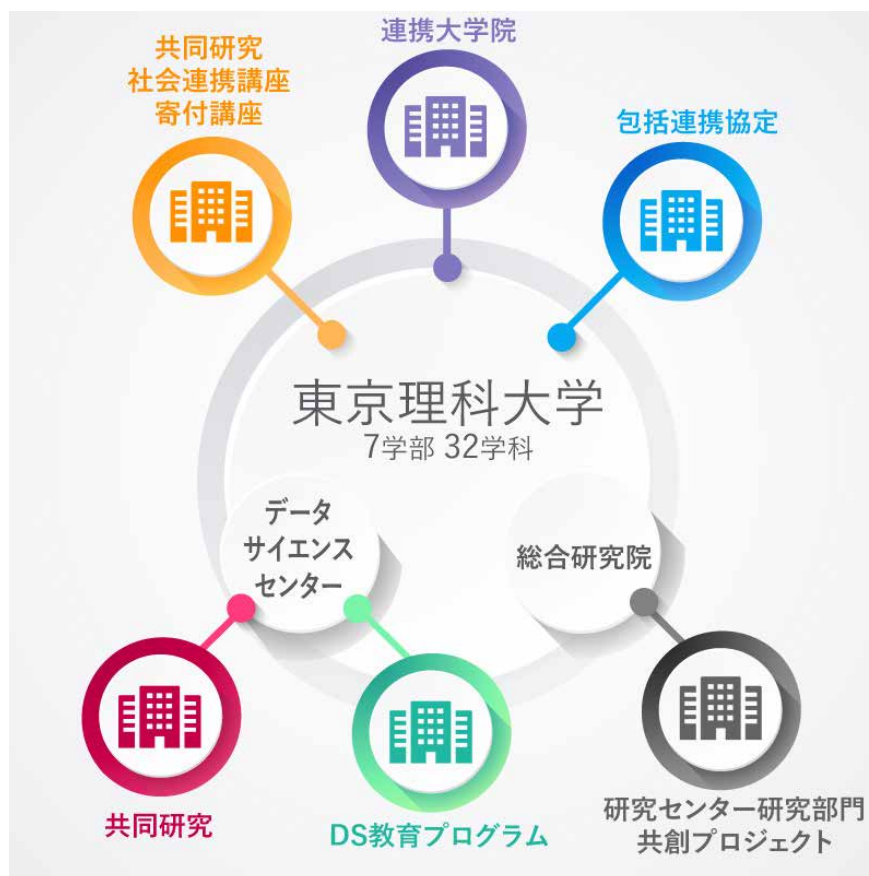


設立年	1881 年
学生数	19,033 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	80:20
学生における留学生比	3.8%
教員数	782 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	48 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
web サイト URL	https://www.tus.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	koho@admin.tus.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.tus.ac.jp/sdgs/

TUS 科学技術イノベーションハブ for SDGs

東京理科大学は 2019 年に数理・データ科学に立脚した教育研究を推進するデータサイエンスセンターを設立しました。データサイエンスセンターと分野横断型の連携研究を推進する総合研究院がハブとなり、学内は

もとより国内外の大学や企業、研究機関と連携して、レジリエントな社会の実現を目指し、社会課題を解決するイノベーション創出に貢献します。



設立年	1887 年
学生数	30,465 名 (2020 年 3 月 31 日時点)
学生数の男女比	57:43
学生における留学生比	6.1%
教員数	1,258 名 (2019 年度)
教員数の男女比	71:29
外国人教員数	124 名
web サイト URL	https://www.toyo.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	学長室 ml-sdgs@toyo.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.toyo.ac.jp/sdgs/

社会教育活動で大学の持つ「知」を社会へ還元

東洋大学は 1887 年の創立直後より「余資なく優暇なき」人々のための教育機会を提供した歴史をもちます。社会教育や生涯学習の広範な普及を目指し、全国各地で講演する「全国巡講」を行った創立者・井上円了の精

神を受け継ぎ、一般の方を対象とした学びの場を提供しています。

この伝統を継承し、地球社会の明るい未来づくりに貢献するとともに、SDGs の目標達成に努めます。



設立年	1888 年
学生数	1,222 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	43:57
学生における留学生比	2.0%
教員数	93 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	76:24
外国人教員数	2 名
web サイト URL	https://www.nara-edu.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	教育研究支援課 k-soumu@nara-edu.ac.jp

奈良教育大学の取組

奈良教育大学では、大学の 3 つの柱の一つに「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」を掲げ、ESD を核とした教員養成と現職教員の研修に取り組んでいます。2015 年に、ESD を実践する教員に求められる資質・能力について研究し、それを育成する研修プログラムとして ESD ティーチャープログラムを開発し、運用しています。

ESD ティーチャープログラムは、① SDGs の理解促進、② ESD の学習理論、③ 優良実践事例の分析、④ 単元構想案の相互検討、⑤ ESD 学習指導案の相互検討の 5 つの研修から成り立っています。そして、提出された ESD 学習指導案を審査し、学長より ESD ティーチャーの認定証を授与するプログラムです。これまでに全国で 117 名の現職教員を ESD ティーチャーに認定しています。



若草山FW：頂上より奈良市街を一望

学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員



広島大学



設立年	1949 年
学生数	15,040 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	60:40
学生における留学生比	18.2%
教員数	1,872 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	116 名
web サイト URL	https://www.hiroshima-u.ac.jp/about NERPS (Japanese) https://nerps.hiroshima-u.ac.jp/ NERPS (English) https://nerps.org/ *NERPS: Network for Education and Research on Peace and Sustainability (NERPS) at Hiroshima University.
問い合わせ窓口、連絡先	学術・社会連携室 学術・社会連携部 URA 部門 gakujutu-ura-gl@office.hiroshima-u.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	(Japanese) https://nerps.hiroshima-u.ac.jp/files/sdgs-report/NERPS_report2018_2019.pdf (English) https://nerps.org/wp-content/uploads/2020/05/NERPS-Activity-Report-2018-2019_0508.pdf

「持続可能な発展を導く科学」の確立を通じ、SDGs に資する新たな統合知の創出

2020 年より本学は、クロスアポイントメント教授 4 名（デンバー大学、コロンビア大学、ストックホルム国際平和研究所、ノッティンガム大学中国寧波校）とともに、平和とサステナビリティに関する6つのトランスディシプリナリー研究プロジェクトを実施しています。

また、Webinar シリーズ等で議論を重ね、同時にネットワークを拡大しています。将来的には、国際通用性の高い研究拠点として、本学長期ビジョンが謳う「持続可能な発展を導く科学」の確立を目指しています。

世界トップ研究者及び多様なステークホルダーと探究する超学際研究「Peace and sustainability」の推進

Project#1 アヨーブ シャリフ HIROSHIMA UNIVERSITY 平和とサステナビリティに関する諸研究の体系的レビュー	Project#2 カレン・ヘンドリックス UNIVERSITY OF DENVER 気候変動と回遊性魚類などの公海上の漁業資源の地域漁業管理組織 (RFMOs) の管理体制
Project#3 フロリアン・克蘭ペ sipri 気候変動と自然環境の変化による平和構築の脆弱性	Project#4 ジョシュア・フィッシャー COLUMBIA UNIVERSITY School of Professional Studies 世界の自然保護地区における自然保護・天然資源管理と地域紛争
Project#5 アリ・チェシメザンギ University of Nottingham Ningbo China デジタル技術とデータサイエンスによる都市のレジリエンスと個人情報	Project#6 ダリア・シマンガン HIROSHIMA UNIVERSITY 紛争影響地域におけるサステナブルな平和と平和的サステナビリティ

「持続可能な発展を導く科学 (Science for Sustainable Development)」の創生へ

北海道大学

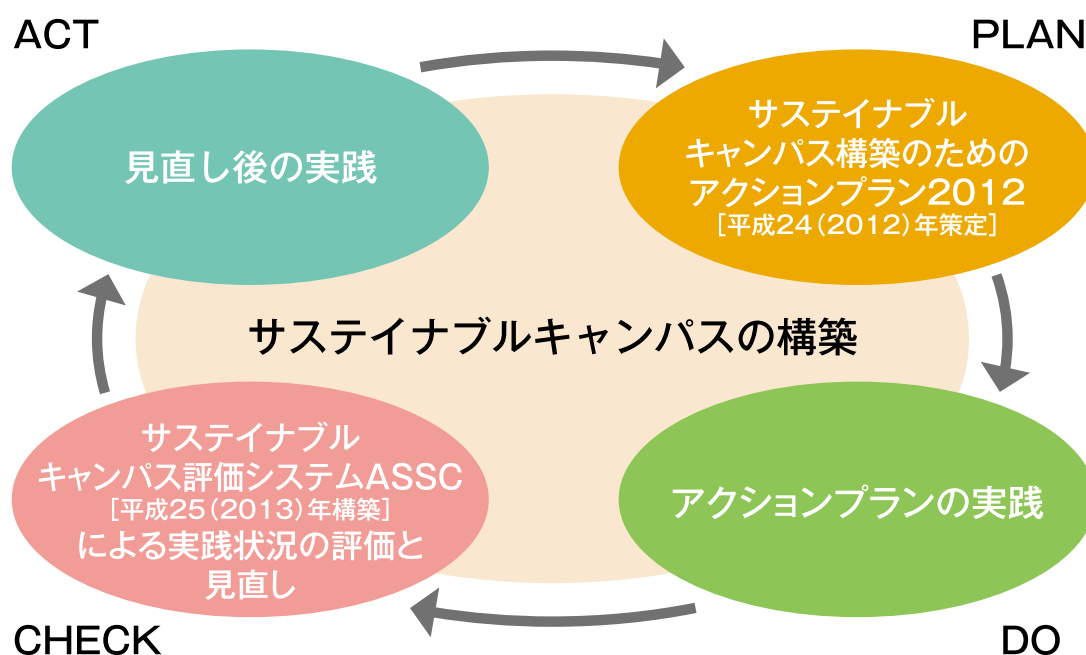


北海道大学

設立年	1876 年
学生数	18,106 名
学生数の男女比	70:30
学生における留学生比	11.6%
教員数	1,988 名 (2020 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	86:14
外国人教員数	193 名
web サイト URL	(Japanese) https://www.hokudai.ac.jp/ (English) https://www.global.hokudai.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	国際部 global@oia.hokudai.ac.jp
サステナビリティレポートの URL	https://www.osc.hokudai.ac.jp/action/sustainability-report

北海道大学は、1876 年に開校した札幌農学校を前身とし、札幌・函館の両キャンパスの他、7つの研究林、研究農場、水圏実験所など、多彩なフィールドと拠点を持つ総合大学です。特に約7万 ha を超える研究林を有し、環境問題が叫ばれる以前より、その広大な森林を整備・保全してきた経験と知の蓄積があります。また、札幌の中心部にある約 180 万㎡の札幌キャンパスは、札幌農学校時代から継承される広大な農牧地や多様な植生を持つ豊かな生態環境を継承しつつ、最先

端の教育・研究拠点を形成しています。サステイナブルキャンパス構築のために、2012 年にアクションプランを策定し、評価システム ASSC の構築や、実行組織の改組などを行ってきました。「サステイナブルキャンパス」とは、「教育・研究・社会連携・キャンパス整備を通して、持続可能な社会の構築に貢献する大学」のことです。これらの取組が評価され、「インターナショナル・グリーン・ガウン・アワード 2019」のファイナリストに選出されました。



設立年	1639 年
学生数	20,489 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
学生数の男女比	62:38
学生における留学生比	2.1%
教員数	504 名 (2021 年 5 月 1 日時点)
教員数の男女比	80:20
外国人教員数	29 名
web サイト URL	https://www.ryukoku.ac.jp/
問い合わせ窓口、連絡先	Ryukoku Extension Center rec-k@ad.ryukoku.ac.jp

ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターの設立

～大学地域連携型事業の発展を目指して～

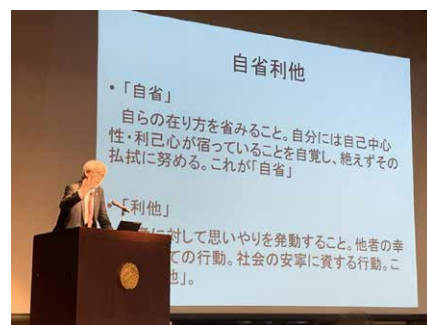
浄土真宗の精神を建学の精神とする龍谷大学では、2019 年に創立 380 年記念事業の基本コンセプトとして「自省利他」を掲げ、仏教の観点で持続可能な社会を考える「仏教 SDGs」の推進と研究および具現化を行う「ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター」を設立しました。ソーシャルビジネスの地域実装化につな

がる大学地域連携型の研究活動や社会活動を推進・支援し、若い世代の志を活かす事業の発展に力を入れています。

ユヌスセンター本部を中心とした、世界各地にあるユヌスソーシャルビジネスセンターのネットワークに加わることで、他機関と連携した活動も展開していきます。

I 龍谷大学とSDGs

■ SDGs達成に向けた龍谷大学独自のエコシステム=複数の目標に「横串を刺す」ことで目標達成を目指す。





UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム事務局
SDGs-UP@unu.edu

Copyright © 2021 United Nations University. All Rights Reserved.